

6. 財務指標による分析 <一般会計等>

財務書類から得られる計数を基に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」に記載されている指標を算出しました。これらを通じ、経年比較や団体間比較を行うことで財政状態の把握が可能となります。なお、ここでの分析は、団体間比較が容易に行えるよう、一般会計等財務書類を対象としています。

① 市民一人当たり資産額	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{資産総額}}{\text{住民基本台帳人口}}$	272.5万円	270.5万円	153.3万円	市民一人当たりの資産額です。過去の資産形成度がどのくらい進んでいるのかがわかります。
分析	類似団体平均を大きく上回っています。これは本市の過去の資産形成度が高く、公共建築物の現在簿価が大きいこと等によるものと考えられます。一方、前年を下回る結果となっています。これは投資その他の資産に含まれる財政調整基金等の取崩しが主な要因です。			

② 歳入額対資産比率	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{資産総額}}{\text{収入総額}}$	4.76年	5.94年	4.34年	公共資産の形成に何年分の歳入が充当されたかがわかります。高ければ社会資本の整備に重点を置いてきたことを表します。自治体の平均的な値は3.0～6.0年です。
分析	類似団体平均を上回る結果となっています。これは過去の歳入を有効に使い公共資産の形成を図ってきたことを示します。一方、前年度比では大きく上回っています。これは、30年度に基金取崩し収入が増加し、分母である歳入総額が大きく膨張したことが影響しています。			

③ 有形固定資産減価償却率	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{有形固定資産 ※1}}$	66.5%	67.1%	58.2%	有形固定資産のうち、償却資産の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているかを把握することができます。
分析	類似団体平均より高い水準にあります。これは本市においては、資産額が大きいことに加えて、昭和50年代に整備された資産が多く、整備から30年以上経過して更新時期を迎えていることなどを示しています。一方、前年度より高い数値となっています。これは建物等の減価償却額が新規取得額を上回ったためです。公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化した施設について、点検・診断や計画的な予防保全による長寿命化を進めていくなど、公共施設等の適正管理に努めます。			

※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産＋減価償却累計額

④ 純資産比率	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{純資産総額}}{\text{資産総額}}$	91.1%	90.9%	78.6%	純資産の増加は、現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を貯蓄したことを表し、純資産の減少は、将来世代が利用可能な資源を現世代が費消して便益を受ける反面、将来世代に負担を先送りしてことを表します。
分析	類似団体平均を大きく上回っています。これは、これまでの本市の財政運営により将来世代も利用可能な資源を蓄積してきたことを意味します。一方、前年度比較では比率が低下しています。これは財政調整基金等を取り崩したことが影響しています。			

⑤ 将来世代負担比率	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{地方債合計(特例地方債を除く)}}{\text{有形固定資産+無形固定資産}}$	6.6%	6.9%	10.5%	社会資本等について地方債により形成した割合をいいます。割合が大きいくほど社会資本等の形成に係る将来世代の負担の比重が大きくなります。
分析	類似団体平均を大きく下回っています。これはこれまでの本市の財政運営において地方債に頼る割合が低かったことを意味します。一方、前年度比較では比率が若干上昇しています。今後も赤字地方債を借り入れないことを基本に、地方債の適正な活用を行い、将来世代の負担の減少に努めます。			

⑥ 市民一人当たり負債額	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{負債総額}}{\text{住民基本台帳人口}}$	24.4万円	24.7万円	32.7万円	市民一人当たりの負債額です。一人当たりの額とすることにより、理解しやすい情報になるとともに、他団体との比較を容易にします。
分析	類似団体平均を大きく下回っています。これはこれまで本市では財源として地方債等の負債に依存する割合が低かったことを意味します。一方、前年度からは若干増加しています。これは、地方債発行額を償還額が上回ったこと等によるものです。今後も赤字地方債を借り入れないことを基本に、地方債の適正な活用に努めます。			

⑦ 市民一人当たり行政コスト	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{純行政コスト}}{\text{住民基本台帳人口}}$	36.6万円	35.6万円	29.2万円	市民一人当たりの行政コストの額です。行政活動の充実度や効率性を反映する指標です。人口や面積、行政サービス水準の類似している団体との比較が有効です。
分析	類似団体平均を大きく上回っています。これは、本市の行政サービス水準が比較的高いことが大きく影響しています。一方、前年度比較では減額となっています。これは、災害復旧事業費が大きく減少したことによるものです。今後も行政活動の充実度を高めつつ、行政コストを不断に見直し行政の効率性向上に努めます。			

⑧ 受益者負担割合	H30年度	R01年度	H30年度 類似団体 平均値	解 説
$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$	6.4%	5.7%	4.9%	行政サービスの提供に対して、受益者が使用料や手数料などでどの程度負担をしているかが分かります。自治体の平均的な値は3%~8%です。
分析	類似団体平均を大きく上回っています。これは、本市の行政サービス水準が比較的高いことから受益者負担も相応にあることを示しています。一方、前年度より比率は若干低下しています。今後については、経常費用のうち物件費等が未だ高い水準にあることから、様々な分野でのサービスの充実を努める一方、事業及び事業手法の見直しなどにより、経費の抑制を図るとともに、適正な受益者負担となるよう定期的な点検と見直しを行っていきます。			